

～ともに助け合うまちづくり～
障がい者に分かりやすい広報の作成に向けて話し合いました

日時：12月1日（水）13：30～15：40

場所：区在宅サービスセンターゆうあい 2階 多目的ルーム

昨年度、障がい当事者を対象に生活するうえでの困りごとや災害時における不安などについてアンケートを実施し、230名から回答を得ました。

今年度は、身体・精神・知的障がいの分野別に回答を集計し、グループワークにより解決策について意見交換を重ね、整理された課題は以下の3点でした。（詳しくは、第1～4回障がい班報告をご覧ください）

- ①相談窓口がわかるシンプルな広報
- ②地域で障がいについて理解を深める勉強会の実施
- ③障がいのある方、そのご家族を支えるボランティアの育成

また、前回会議で、「当事者からの貴重なアンケート結果をもっと生かすために、専門家による詳細な分析が必要」という意見が挙がっていました。

そこで、関西学院大学の高杉公人先生に依頼し、アンケートのクロス集計をしていただくことになりました。以下、先生からの障がい班に対するアドバイスです。

＜高杉先生からのアドバイス＞

- ①シンプルな広報について、既存の広報紙を活用し障がい者が分かりやすいものに改良してはどうか
- ②障がいについて理解を深める勉強会の実施について、施設の地域開放を目的として施設内で勉強会をしてはどうか
- ③安心安全カードは災害時の要援護者支援のために障がい者にも配布してはどうか
- ④ポッチャは当事者と地域の交流していくためのきっかけとしていい事業である

まず、①の広報から取組みを進めることになりました。家内労働センター連合授産場の職員より、知的障がいがある方に対する広報の工夫について伺い、ひらがなやイラストを多く利用することを学びました。その後、グループで意見交換をし、次のとおり決めました。

＜今後の取組み＞

- 必要最小限の情報として、区役所、警察、消防、区社協、障がい者事業所などの連絡先を分かりやすく周知できるようなシンプルな広報を作成する。
- 地域のふれあい活動の案内を分かりやすく作成する。

<安心安全カードについて>

- 困ったときの連絡先などの項目に現行は高齢者電話相談の連絡先が入っているが、そこを障がい者相談に変える。
- 視覚障がい者のための安心安全カードの点字版の作成を検討する。
- 知的障がい者用に、安心安全カードにルビを打ったものを作成する。

シンプルな広報と安心安全カードについて、当事者に意見を聞き、次回会議で事務局がたたき台を提示することになりました。

また、ボッチャ大会について、障がい当事者と地域との交流促進のため、区内で地域活動に関わっておられる未来わがまち会議委員とアクションプラン推進委員と当事者でのボッチャ大会の開催を事務局が提案し了承されました。今後未来わがまち会議で検討して頂き、了承されれば早くも2月の実施を検討する予定です。

※ボッチャについて

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

天王寺区地域福祉アクションプラン障がい班では、地域と障がい当事者のつながりづくりを目的として、天王寺区身体障害者団体協議会と連携し各地域の取り組みを支援しています。

